

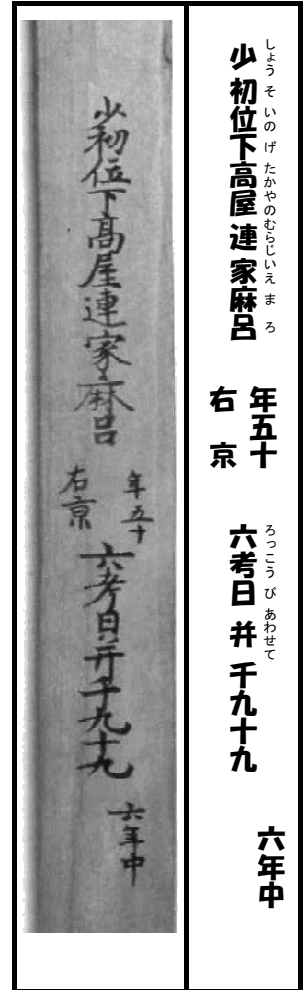
もっかん  
「木簡」から貴族や役人の生活を調べよう

墨で書かれた木の切れはしのことを「木簡」といいます。奈良時代のころまでは、紙は貴重品でしたので、このように木の切れはしが紙の代用品として使われており、私たちに当時のようすを伝えてくれています。

(1) 左大臣（現在の総理大臣にあたる地位）だった長屋王の家のあとから発掘された「木簡」から、長屋王が食べていたものを調べてみましょう。

(2) 右の「木簡」は平城京「右京」に暮らしていた高屋連家麻呂という下級役人（「少初位下」というのは役人の中で最も下の位です）の6年間の働きぶりについて書かれた記録です。

- ◇この「木簡」を見つけましたか？（はい・いいえ）
- ◇家麻呂は何歳ですか？ \_\_\_\_\_ 歳
- ◇家麻呂は6年間で何日働きましたか？ \_\_\_\_\_ 日
- ◇家麻呂は1年平均では何日働きましたか？ \_\_\_\_\_ 日
- ◇家麻呂の仕事ぶりはどのように評価されていますか？



少初位下高屋連家麻呂  
右京 年五十九  
六考日并千九十九  
六年中

(3) 都の役人は、筆や小刀を使って紙や「木簡」に記録をつけていたことから、「刀筆の吏」とも呼ばれていました。小刀は何のために必要だったと思いますか？